

# 平成22年5月 全国百貨店売上高概況

平成22年6月21日

## I. 概況

1. 売上高総額	4,912億円余
2. 前年同月比	-2.1% (店舗数調整後/27か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	92社 265店 (平成22年4月対比-2店)
4. 総店舗面積	6,545,095㎡ (前年同月比:-2.8%)
5. 総従業員数	95,617人 (前年同月比:-3.1%)
6. 3か月移動平均値	10-12月 -8.8%、11-1月 -7.4%、12-2月 -5.4%、 1-3月 -4.9%、2-4月 -4.2%、3-5月 -3.1%

[参考] 平成21年5月の売上高増減率は-12.3% (店舗数調整後)

### 【5月売上の特徴】

27か月連続の前年同月比マイナスであるが、減少率は2%台(08年7月の-2.5%以来22か月ぶり)まで復調した。また、トレンドを示す3か月移動平均値は6期連続で水準を戻している。

5月は、ゴールデンウィークの期間中好天に恵まれたことや、企業業績の回復など景気持ち直しの傾向が続いたことなどから、消費マインドが改善し、初夏物衣料を中心とした季節商材や宝飾品・輸入雑貨などの高額品が好調に推移した。しかし、中旬以降は一転して低温多雨の影響から季節需要が伸び悩み、最終的には前年実績を若干割り込む結果となった。

また、都市部の基幹店の多くで前年を上回るケースが見られた反面、地方店が相対的に苦戦した状況が当月の特徴となっている。(横浜、京都、神戸はプラス転換、10都市-1.1%・10都市以外-4.0%)

具体的な動向としては、一部店舗の改装工事による売場面積縮小、エコポイント対象商品変更の影響による家電大幅減などマイナス要素がある一方、商品催事・文化催事の積極展開による入店客数増、資産効果を背景とした高級時計の好調推移、急伸基調にある外国人売上高の前年比5割増(7か月連続二桁増/調査対象40店舗)などのプラス要素が報告されている。

### 【要因】

(1) 天候 : 気象庁発表「5月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇ 北日本から西日本にかけて気温の変動が大きかった。中旬までは移動性高気圧に覆われ暖かく晴れの日が多かったが、日本海側や北日本では一時ぐずついた。下旬は強い寒気の影響で気温は平年を下回った。

(2) 営業日数増減 30.8日 (前年同月比+0.2日)

(3) 土・日・祝日の合計 13日 ( " ±0日)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)

①増加した: 42店、②変化なし: 30店、③減少した: 64店、④不明: 45店

(5) 5月歳時記 (GW、子供の日、母の日) の売上 (同上)

①増加した: 33店、②変化なし: 44店、③減少した: 35店、④不明: 69店

(6) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)

①増加する: 22店、②変化なし: 68店、③減少する: 38店、④不明: 53店

# 全国百貨店 売上高速報 2010年05月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ( )が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
<b>全国</b>	<b>491,236,202</b>	<b>100.0</b>	<b>-2.1 ( -3.9)</b>
<b>10都市</b>	<b>316,381,341</b>	<b>64.4</b>	<b>-1.1 ( -2.9)</b>
札幌	12,021,544	2.4	-2.1 ( -8.6)
仙台	6,373,736	1.3	-5.4
東京	122,252,633	24.9	-1.8 ( -3.3)
横浜	28,264,496	5.8	0.4
名古屋	29,306,959	6.0	-1.3
京都	19,769,421	4.0	0.2
大阪	59,607,018	12.1	-0.9 ( -5.9)
神戸	13,686,176	2.8	7.1
広島	11,302,537	2.3	-4.0
福岡	13,796,821	2.8	-2.4
<b>10都市以外の地区</b>	<b>174,854,861</b>	<b>35.6</b>	<b>-4.0 ( -5.7)</b>
北海道	2,768,642	0.6	8.5 ( -22.2)
東北	9,489,152	1.9	-6.5
関東	84,878,882	17.3	-3.2 ( -4.5)
中部	13,794,519	2.8	-2.7 ( -4.9)
近畿	15,969,308	3.3	-4.1
中国	12,246,714	2.5	-5.7
四国	8,834,815	1.8	-7.4
九州	26,872,829	5.5	-5.1 ( -7.6)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
<b>総 額</b>	<b>491,236,202</b>	<b>100.0</b>	<b>-2.1 ( -3.9)</b>
紳士服・洋品	36,137,376	7.4	-3.0 ( -4.6)
婦人服・洋品	115,448,185	23.5	-2.1 ( -3.8)
子供服・洋品	13,971,607	2.8	-0.2 ( -1.1)
その他衣料品	13,096,753	2.7	-8.9 ( -10.6)
<b>衣 料 品</b>	<b>178,653,921</b>	<b>36.4</b>	<b>-2.6 ( -4.3)</b>
身のまわり品	63,933,484	13.0	-2.5 ( -4.8)
化粧品	27,905,278	5.7	-1.0 ( -2.2)
美術・宝飾・貴金属	22,427,478	4.6	-0.7 ( -4.1)
その他雑貨	19,779,797	4.0	-6.4 ( -9.3)
<b>雑 貨</b>	<b>70,112,553</b>	<b>14.3</b>	<b>-2.5 ( -4.9)</b>
家 具	6,695,451	1.4	-3.4 ( -5.3)
家 電	1,472,502	0.3	-18.5 ( -19.2)
その他家庭用品	17,909,603	3.6	-1.0 ( -2.6)
<b>家 庭 用 品</b>	<b>26,077,556</b>	<b>5.3</b>	<b>-2.8 ( -4.4)</b>
生 鮮 食 品	27,872,925	5.7	-3.3 ( -4.0)
菓 子	30,465,668	6.2	-1.7 ( -2.5)
惣 菜	27,155,089	5.5	-3.1 ( -3.6)
その他食料品	34,716,263	7.1	-1.8 ( -5.2)
<b>食 料 品</b>	<b>120,209,945</b>	<b>24.5</b>	<b>-2.4 ( -3.9)</b>
食 堂 喫 茶	14,413,565	2.9	-4.6 ( -5.9)
サ ー ビ ス	6,226,570	1.3	6.0 ( 4.8)
そ の 他	11,608,608	2.4	15.5 ( 14.9)
<b>商 品 券</b>	<b>17,769,064</b>	<b>3.6</b>	<b>13.2 ( 12.2)</b>

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

## Ⅱ. 地区別の動き

- |                  |       |          |   |             |
|------------------|-------|----------|---|-------------|
| 1. 10都市売上動向      | -1.1% | (店舗数調整後) | / | 27か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -4.0% | ( " )    | / | 35か月連続マイナス) |

### 【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-1.1	-0.7	27か月連続マイナス
札幌	-2.1	-0.1	3か月連続マイナス
仙台	-5.4	-0.1	25か月連続マイナス
東京	-1.8	-0.5	27か月連続マイナス
横浜	0.4	0.0	2か月ぶりプラス
名古屋	-1.3	-0.1	30か月連続マイナス
京都	0.2	0.0	21か月ぶりプラス
大阪	-0.9	-0.1	27か月連続マイナス
神戸	7.1	0.2	5か月ぶりプラス
広島	-4.0	-0.1	27か月連続マイナス
福岡	-2.4	-0.1	22か月連続マイナス
10都市以外の地区	-4.0	-1.4	35か月連続マイナス
北海道	8.5	0.0	12か月連続プラス*
東北	-6.5	-0.1	26か月連続マイナス*
関東	-3.2	-0.6	35か月連続マイナス
中部	-2.7	-0.1	26か月連続マイナス
近畿	-4.1	-0.1	26か月連続マイナス
中国	-5.7	-0.1	24か月連続マイナス*
四国	-7.4	-0.1	35か月連続マイナス
九州	-5.1	-0.3	33か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

### Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、3か月ぶりに全品目がマイナスとなった。しかし、衣料品の全品目が先月より大きく改善した。身のまわり品と雑貨は先月よりマイナス幅を縮めたが、家庭用品と食料品が落とす結果となった。また、化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、家具が先月より改善する動きとなった。

#### 【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>総額</b>	-2.1	—	27か月連続マイナス
紳士服・洋品	-3.0	-0.2	26か月連続マイナス
婦人服・洋品	-2.1	-0.5	35か月連続マイナス
子供服・洋品	-0.2	0.0	21か月連続マイナス
その他衣料品	-8.9	-0.3	27か月連続マイナス
<b>衣料品</b>	-2.6	-1.0	35か月連続マイナス
<b>身のまわり品</b>	-2.5	-0.3	33か月連続マイナス
化粧品	-1.0	-0.1	18か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-0.7	0.0	39か月連続マイナス*
その他雑貨	-6.4	-0.3	30か月連続マイナス*
<b>雑貨</b>	-2.5	-0.4	27か月連続マイナス
家具	-3.4	0.0	30か月連続マイナス
家電	-18.5	-0.1	3か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-1.0	0.0	3か月ぶりマイナス
<b>家庭用品</b>	-2.8	-0.2	2か月連続マイナス
生鮮食品	-3.3	-0.2	16か月連続マイナス*
菓子	-1.7	-0.1	2か月ぶりマイナス*
惣菜	-3.1	-0.2	24か月連続マイナス*
その他食料品	-1.8	-0.1	2か月ぶりマイナス*
<b>食料品</b>	-2.4	-0.6	2か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-4.6	-0.1	22か月連続マイナス
サービス	6.0	0.1	2か月連続プラス
<b>その他</b>	15.5	0.3	2か月連続プラス
<b>商品券</b>	13.2	0.4	7か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田・佐藤まで

TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>